

地域ケア会議 体系化 規範的統合

海田町

資源開発・政策形成をめざす地域ケア会議を描く

みどころ！

平成 27 年 4 月に「海田町地域ケア会議設置要綱」を定め、地域ケア推進会議を設置した。地域ケア会議だけでなく、在宅医療・介護連携推進会議、認知症初期集中支援チーム、生活支援サービス協議体も体系図に位置付け、「海田町地域包括ケア会議デザイン」（案）として作成した。

このデザインに基づいて地域ケア会議を進めることで、介護支援専門員をはじめ、在宅支援にかかる専門職に対しても理解を広め、町内にある、人・もの・仕組みを活用し、さらに必要な資源を創出し、政策形成へ向かう流れを構築した。

地域概要	実施主体
総人口 29,068 人	海田町
65 歳以上人口 6,380 人 高齢化率 (21.9%)	海田町地域包括支援センター
75 歳以上人口 2,721 人 高齢化率 (9.4%)	
(平成 26 年 9 月)	
<p>広島県南西部、広島湾岸の東部に位置する海田町は、広島市安芸区、府中町、坂町、熊野町に隣接する。県内で 2 番目に狭い自治体で、人口密度は広島市より高い人口集中地域。2 つの山地に挟まれる形で瀬野川が流れ、その流域の平坦地を中心に市街地が形成される。JR や国道の整備により公共交通は比較的便利、スーパーなど生活に必要な資源も豊富。</p>	
地域包括支援センターの活動紹介	
<p>【体制】 町直営にて実施。主任介護支援専門員 1 人、社会福祉士 1 人、保健師 1 人</p>	
<p>【活動】 認知症施策として町と共同で平成 22 年度より認知症サポーター養成講座の開催、平成 23 年度より徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事業の実施、平成 27 年度より認知症地域支援推進員の設置を行っている。また、介護予防事業として平成 27 年度に中店地区で、県の支援を受け「地域づくりによる介護予防事業」のモデル事業を実施した。</p>	

取組の背景と課題認識

町や地域包括支援センターでは、在宅支援に関する会議体として、個別課題解決機能としての地域ケア会議があったが、抽出した課題の検討や整理ができていなかった。同時に、町内には別の主催者による類似の会議や協議の場があり、会議体の意義や相互の関係性を確認することができていなかった。また、町内にはない医療施設との連携の必要性や、住民の広範囲にわたる生活エリアに対応するための社会資源の確保と連携など、総合事業の開始に向けて、体制づくりを推進しなければならない。関係団体、多職種に対して町の考え方やケアの流れなどを確認するとともに、住民への説明と理解を得るための枠組みを作成する必要がある。

取組の内容

- 平成 27 年 4 月 「海田町地域ケア会議設置要綱」を定める
個別ケア会議と地域ケア推進会議の位置づけを明確化する



＜地域ケア会議を運営する上での現状と課題＞

- ①介護支援専門員等の専門職が学ぶ機会が少なく、理解が十分でない。
- ②個別ケア会議で出された事例数が少なく課題抽出に至らない
- ③町域が狭いため、近隣の市町と研修や勉強会を共同で開催する等、医療や介護の事業者が連携する必要がある。
- ④専門職だけでなく、住民の理解と意識啓発が必要
- ⑤関連する各団体、組織において、地域包括ケアの役割分担が明確でない

これらを考慮して、地域ケア会議の意義と流れについて実効性あるものにする必要がある



- 平成 27 年 10 月 朝来市の「地域ケア会議デザイン」を参考に検討を開始する
既存の会議体、協議の場などをリストアップし整理する
県、保健所、県地域包括ケア推進センター、ケアマネマイスターの支援を受けて協議を重ねる。

グループ討議

Aさん世帯を支えるためのサービスや地域で生活する環境づくりについて検討するために『地域ケア個別会議』を開くことになりました。

- ①Aさん世帯が生活するための課題は何ですか。
それを解決するために会議に出席してもらいたい人は誰ですか。

発表

- ②課題解決のために誰にどんな役割を担ってもらおうといいでしょうか。

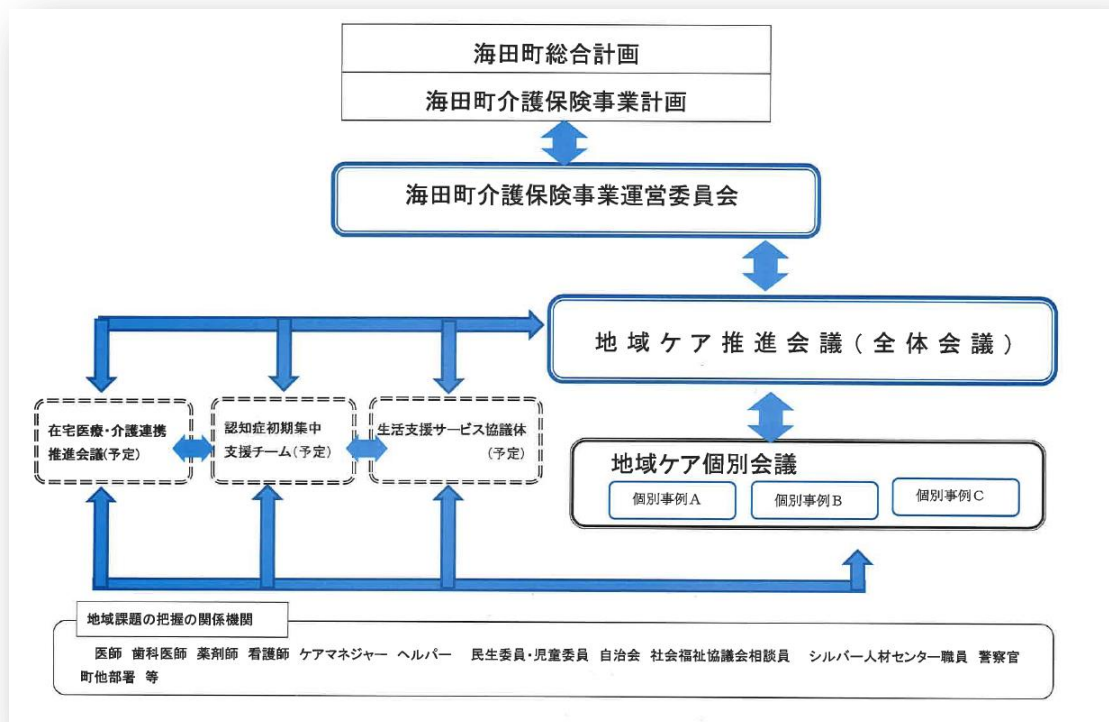
- ③地域にあったらいいと思う資源は何ですか。
発表

③地域にあったらいいと思う資源・対策 ＝残された課題

- ①地域の見守り体制の構築
- ②Aさん世帯の生活支援
- ③精神疾患をもつ長女への支援
- ④精神疾患に対する地域の理解の促進



○平成 28 年 1 月 海田町地域ケア会議デザイン（案）作成



○今後、構成員の調整と、抽出する課題や資源の総括を行うための事務を進めていく

取組の成果と今後の展開と課題

【成果】

既存の会議体、協議の場、連携のありかたを再構築し、点を線、さらに面にする「地域ケア会議デザイン」を構築できた。そのプロセスでは、関係団体との協議や合意形成をていねいに進め、町の地域包括ケアのありかたの理解と、介護支援専門員等の意識の向上につながった。

【今後の展開と課題】

地域ケア会議デザインの運営を重ねながらバージョンアップをめざしていきたい。同時に、住民の生活移動範囲のように、把握している地域の課題が自治体を横断している町には、同様の課題を有する近隣の市町と課題を共有し、対応を検討する必要がある。また、医療介護資源の確保、地域資源の創出、医療介護人材の育成確保などの課題解決に向けて引き続き検討をしていきたい。

取組のポイント、機能強化ポイント

人口密度が高い町の特長は、豊富な社会資源と隣接する自治体にある医療介護体制との相乗効果が期待できることにある。こうした地域特性を生かし、まさに面としての動きを町主導で道筋をつけた体系化は、医療介護連携のありかたや在宅ケアにかかる課題抽出、住民との役割分担など、地域包括ケアについての考え方を共有するという規範的統合をめざした取組みといえる。

連絡先	海田町地域包括支援センター	082-821-3210	担当：佐々木 仁
	広島県地域包括ケア推進センター	082-569-6493	
	広島県健康福祉局地域包括ケア・高齢者支援課	082-513-3198	

平成 28 年 3 月現在